

国際科スタディツアー旅行記 2018.10.01- 2018.10.06

1日目：成田空港→シンガポール→（国境越え）→ジョホールバル

出発前夜に台風が直撃するというアクシデントに見舞われましたが、無事に出発することができました。シンガポール到着後、中華料理でお腹を満たし、緊張の国境越えをしました。マレーシア・シンガポール間では、通勤や買い物で活発な人の移動があり、私たちが国境にさしかかった時間帯は非常に混雑していました。着いてすぐにシンガポール入国・出国・マレーシア入国をするという貴重な経験をしました。ホテルに着いたのは23時近く。非常にハードな1日となりました。



2日目：マレーシア工科大学（UTM）での研修

この日はマレーシア工科大学での研修でした。マレーシアの大学は筑波大学のような、巨大なキャンパスで、学生たちは自転車やバイクを使って移動するそうです。ヤシの木が茂る南国情緒あふれるキャンパスで、午前中は文系・理系に分かれて、大学の先生による講義を聞きました。非常に難しい内容で、さらに、マレーシアの方の話す英語を聞き取るのに、生徒たちは一所懸命な様子でした。マレーシアには、マレー系・ボルネオ系・中華系・インド系など様々な民族背景があり、英語は意思疎通のための「共通語」です。ひとりひとり発音や言葉遣いが異なり、生徒が学生の英語を必死に聞き取ろうとしている様子が見られました。

午後は、日本で準備したプレゼンテーションを、現地の学生に見せながらのディスカッションでした。準備してきたものが上手に伝わらない場面があり、生徒たちは新たにスライドを手直ししたり、スクリプトを書き直したりしていました。細かく説明しなくても大丈夫だと思っていたことが、全く伝わらず、プレゼンテーションでは、誰にでも分かるように説明することの大切さを学んだようでした。

この日の夜はホテルでの夕食でした。翌日のプレゼン発表に向けて、ロビーで遅くまで作業をしている班もありました。



3日目：マレーシア工科大学（UTM）での研修・プレゼンテーション発表

この日は2つの会場に分かれて、プレゼンテーションの発表を行いました。前日から準備を手伝ってくれた学生さんが、冒頭に班のメンバーを紹介して、発表が始まりました。質疑応答では、咄嗟に答えが出ない様子でしたが、班のメンバーと協力して、なんとか答えようとする様子が見られました。

午前の発表のあと、学生たちが評価してくれた結果をもとに、各会場での最優秀グループを選出し、大

会場で発表をしました。第1会場からは、探Q社会ゼミの「日本の女性の社会進出と声の高さの関係」、第2会場からは、「折り紙の無限の可能性」が最優秀プレゼンテーションとして発表しました。社会学のリーザ教授からは、日本の折り紙に見られる創造性に感激した、というような有意義なコメントを聞くことができました。

閉講式で修了証をもらい、モスク前で記念撮影へ。学生さんたちは、生徒のために贈り物を用意してくれている様子で、生徒たちは学生たちとの別れを惜しんでいる様子でした。たくさんの学生やスタッフに見送られ、無事に大学研修を終えることができました。

マレーシアの現地の人々の生活を体験すべく、大学からの帰り道にマレーシアのイオンに寄り、買い物体験をしました。この日初めて、マレーシアの通貨リンギットを使いました。夕食の買い物ラッシュで、レジは長蛇の列でしたが、生徒たちは珍しい果物・お菓子などをたくさん目にして、楽しんでいるようでした。マレーシアでは香辛料をふんだんに使ったスナックやインスタント食品が一般的で、辛いお菓子を買って、ホテルの部屋で試食会を行っているグループもありました。この日の夜は早くもマレーシア最後の夜となりました。生徒たちは研修を終え、非常にほっとしている様子でした。翌日はいよいよシンガポールに向かいます。



4日目：マレーシア市内観光・シンガポール平和学習・マールライオン公園・講話

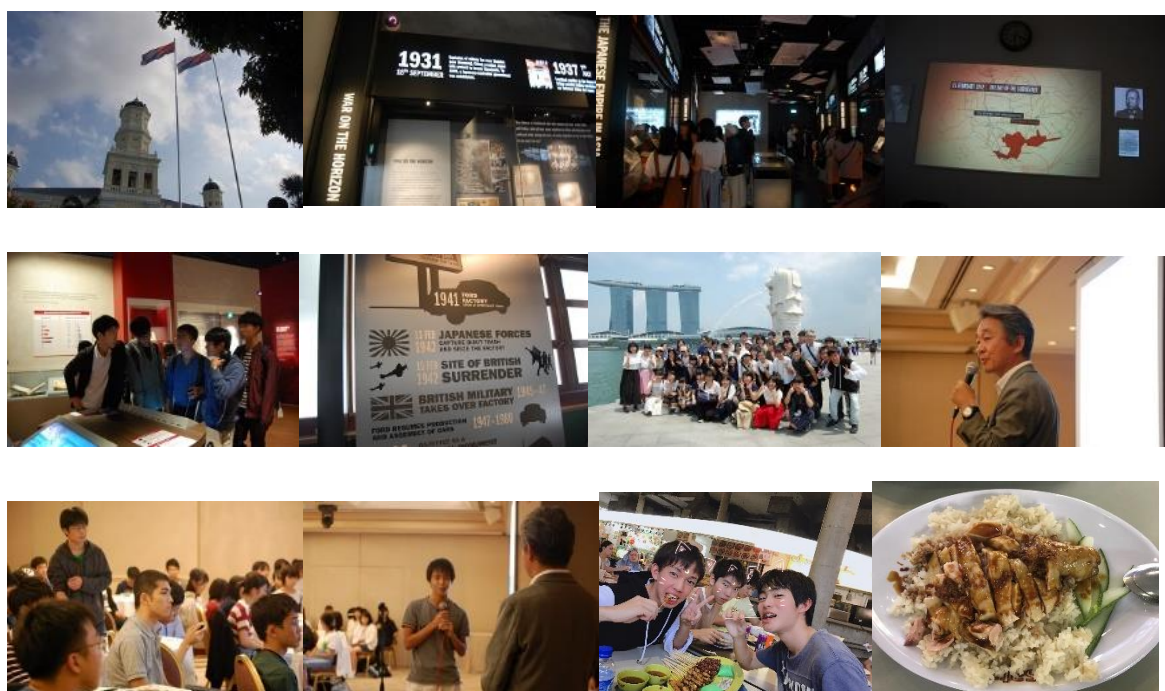
この日は朝早くマレーシアのモスクを見学し、10時にマレーシアを出国し、シンガポールに入国しました。幸い、朝の出勤ラッシュによる国境での渋滞を避けることが出来、スムーズな移動になりました。

た。シンガポールではまず、オールドフォードファクトリーという、日本軍占領時代の資料を展示した歴史博物館へ行きました。フォード社の自動車工場があった場所で、1942年に英国が日本軍への降伏文書に調印した歴史的な舞台となった場所でもあります。ここでは、マレー戦・華僑によるレジスタンス・日本統治下の昭南島・終戦後の発展などによる貴重な展示を見ることができました。日本での平和学習では学べない、日本によるシンガポールの統治という非常に興味深い内容でした。日本語使用の強制や、日本軍の残忍な振る舞い、などについての展示を、生徒も説明文をじっくり読んだり、音声ガイドを聞いたりして、理解を深めている様子でした。1時間があっという間に過ぎてしまい、時間が足りないくらいの盛りだくさんの内容でした。

平和学習の後は、中華料理を食べ、マーライオン公園へ行きました。10月からマーライオン像が工事のためカバーを掛けられる予定だったのが、幸い、その立派な姿を見ることができました。この日は晴天で日差しが強く、一昨日までの冷房の効いた教室が「寒い」と言っていたことを忘れるくらいでした。マーライオン像・シンガポールの超高層ビル群・華やかなショッピング街を目にすると、マレーシアからシンガポールという大都会にやってきた感覚があります。たった1kmの橋を渡るだけなのに、全く異なる風景が広がっていました。

夕方はホテルにて、世界で働く日本人による講話を聞きました。日本旅行シンガポール社長の中島さんが、ビジネスの世界で世界的に成功するために必要なことを、貴重な経験をもとに話してくださいました。ビジネスの世界では、人の話を他人に教えられるまで理解すること・人に何かを伝えるためには思考を上手にまとめることが必要だという話をしてくださり、生徒の学習にも応用できる内容でした。また、シンガポール成立の歴史・発展の道のり・観光戦略などについてのお話を聞くことで、生徒は直に目にしたシンガポールの姿を正しく理解できたようでした。空港を資源として活用し、ハブ化によって観光収入を大幅に上げる戦略を取っているという話は、どこか人ごとではないように感じられました。シンガポールの、将来を見据えた戦略に、驚かされました。

この日の夜はホーカーでの自由食でした。外食が一般的なシンガポールでは、ホーカーが充実しています。生徒たちは見慣れない食べ物を、友だちとシェアしながら、楽しんで食べている様子でした。



5日目：B&Sプログラム・リバークルーズ

最終日は、シンガポール国立大学の学生に、街中を案内してもらうB&Sプログラムでした。シンガポール国立大学のキャンパスは美しく、その大きさにも圧倒されました。生徒たちの希望の行き先を聞いて、いよいよ出発です。生徒が帰着後に感想を聞きました。英語の流暢さに刺激を受け、非常に親切に案内してくれたことに感銘を受けているようでした。13時までの付き添いにもかかわらず、最後のホテル帰着までボランティアで付き合ってくれた学生もあり、生徒たちは別れを惜しんでいました。生徒たちは動物園・ガーデンバイザベイ・セントーサ島・チャイナタウン・アラブストリート・リトルインディアなど、それぞれ多様な場所で有意義な研修ができたようです。



最後の夕食は、シンガポールのおでん、スチームボートでした。旅の終わりを惜しみながら、B&Sの報告で盛り上がっている様子でした。そして、最後はクラークキーで船に乗り、シンガポールの夜景を見に行きました。マーライオン像・マリーナベイサンズなどの綺麗な夜の姿を見ることが出来、旅の最高の締めくくりとなりました。

